

ID	
氏名	
年齢	
科名	病棟

Pembrolizumab +【BS】Trastuzumab +CapeOX療法

3週毎 コース予定

疾患名 胃癌

主治医

指導医

HBs抗原()、HBs抗体()、HBc抗体()

スケジュール

《注射》	day 1		
キイトルーダ(ペムブロリズマブ)	200 mg/body	↓	
トラスツズマブBS	初回投与	8 mg/kg	↓
	2回目以降	6 mg/kg	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
《内服》	day 1(夕)	day 15(朝)	《7日間休薬》
カペシタビン	↓	↓	←→

- 【注意】
- * 他剤使用時はペムブロリズマブ投与前に血管確保用生食にてフラッシュすること。
 - * ペムブロリズマブは0.2又は 0.22 μmインラインフィルターを通して投与すること。
 - * トラスツズマブは投与予定日より1週間以内の遅れで投与する際は6 mg/kgを投与する。
 - * トラスツズマブは投与予定日より1週間を越えた後に投与する際は、改めて初回投与量の8 mg/kgで投与を行う。なお、次回以降は6 mg/kgを3週間間隔で投与する。
 - * トラスツズマブ初回投与時は90分以上かけて、初回投与の忍容性が良好であれば2回目以降の投与時間は30分間まで短縮できる。

カペシタビン

体表面積に応じて右表により
1日量を決定する。

体表面積	1日投与量
1.36 m ² 未満	2,400 mg/day
1.36 m ² 以上～1.66 m ² 未満	3,000 mg/day
1.66 m ² 以上～1.96 m ² 未満	3,600 mg/day
1.96 m ² 以上	4,200 mg/day

通常量より減量する際の理由

(レジメン)

day 1

Pembrolizumab+【BS】Trastuzumab+CapeOX療法

- ① 生食 500 mLで血管確保 維持(20 mL/時間)
- ② キイトルーダ 200 mg + 生食 50 mL 点滴静注30分(100 mL/時間)
(希釈最終濃度が1~10 mg/mLとなるように生食液量を調節する)
◎メインの生食でフラッシュ
- ③ パロノセトロン 0.75 mg + 生食 20 mL 側管静注
- ④ デキサメタゾン 6.6 mg + 生食 20 mL 側管静注
- ⑤ トラスツズマブBS + 生食 250 mL 点滴静注 初回投与時90分、2回目以降()分
【8 mg/kg投与時: mg】 【6 mg/kg投与時: mg】
- ⑥ オキサリプラチン + デキサメタゾン 6.6 mg + 5%ブドウ糖 250 mL 点滴静注120分(125 mL/時間)
◎ 終了後メインの生食でルート内フラッシュして抜針

day 2, 3 必要時 デキサメタゾン錠 4 mg 2錠 2× 朝昼食後 内服

day 1(夕)- 15(朝) カペシタビン錠 2×朝夕食後 内服

	コース	コース	コース	コース	コース	コース
月日	/	/	/	/	/	/
キイトルーダ 開始時間	↓	↓	↓	↓	↓	↓
トラスツズマブ 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
オキサリプラチン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						

	コース	コース	コース	コース	コース	コース
月日	/	/	/	/	/	/
キイトルーダ 開始時間	↓	↓	↓	↓	↓	↓
トラスツズマブ 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
オキサリプラチン 開始時刻	↓	↓	↓	↓	↓	↓
確認						